

第2分科会 研究課題「子どもの発達に関する課題」

研究主題「児童生徒がメディアとよりよく付き合うための教頭の役割

～家庭・外部機関との連携を通して～

延岡支会（小学校）

1 主題設定の理由

現代社会は Society5.0 を迎えた。まさに超情報化社会と言われ、インターネットや SNS などのメディアは児童の将来において切り離せないツールとなった。学習指導要領においても、児童生徒の情報活用能力を育成し、情報モラルを身に付けさせることが求められている。また、学校現場においては、GIGA スクール構想に伴う一人1台端末の導入により、メディアの有効な活用方法を追究し指導していく必要がある。

そのような中、SNS に関連した児童のトラブルや事件は後を絶たず、メディアによって生活習慣に課題を抱える児童も少なくない。メディアが児童の生涯にわたって切り離せない生活を豊かにしてくれる大切なツールであることは確かである。しかし、実際には発達段階に合わない利用や誤った使い方の実態があり、今後児童にメディアを有効に活用できる知識・技能及びモラルを身に付けさせていくことが急務である。

これらのことから、本研究では、児童がメディアとよりよく付き合うための教頭としての役割を、家庭・外部機関との連携に焦点を当てて取り組んでいくこととした。

2 研究のねらい

メディアを有効に活用できる知識・技能及びモラルを児童に身に付けさせていくために「学校は家庭や外部機関とどのように連携していくことができるか」「そのために教頭としてどのような役割を担うことができるか」を実践し追究する。



【研究の構想図】

3 研究の概要と成果

(1) 実態調査

児童がメディアとよりよく付き合うための指導及び保護者や外部機関との連携の在り方を探るため、延岡市内児童生徒のメディア利用についての実態を把握することとした。

① 調査の方法

ア 調査対象者

市内小中学校の抽出校（小中各7校）

小学5年生、中学2年生とその保護者

イ 児童生徒の携帯電話・スマホなどについてアンケートによる調査

<児童生徒と保護者への共通質問>

- ・携帯電話・スマホの所持
- ・インターネットの使用
- ・携帯電話・スマホ等の使用目的
- ・携帯電話・スマホ等の使用時間
- ・各家庭の使用上のルール

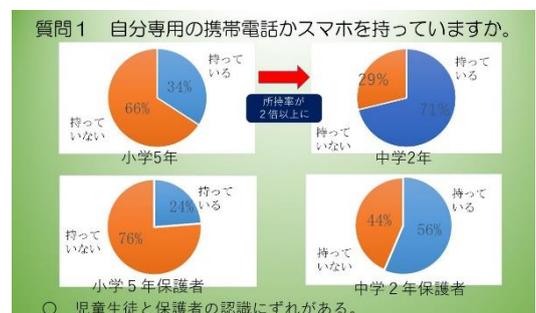
<児童生徒のみへの質問>

- ・インターネット上でいやな思いをしたことがあるかとその内容
- ・いやな思いをした場合の相談者

<保護者のみへの質問>

- ・子どものメディア利用について、「よいと思うこと」と「よくないと思うこと」

② アンケート調査の結果



質問1「携帯電話・スマホの所持率」について、中学2年生は小学5年生の約2倍であり、やはり小学生時から使用上のマナーやリテラシーを身に付けさせておく必要が感じられた。また、質問1に限らず各質問において、児童生徒と保護者の回答にズ

レが見られたことから、保護者が把握できていない使用の実態があるのではないかと
いう予想もできた。

③ 実態調査の活用

実態調査の結果データは市内全小中学校へ提供した。活用際には、教頭が各学年や各校務部のリーダーへ働きかけ、活用の方法や意義について助言をし共通理解のもと学校全体の取組になるよう組織のマネジメントを行った。その上で、データは授業や研修、保護者への啓発等の際に活用してもらうこととした。



(2) 家庭・外部機関との連携

学校が家庭や外部機関との連携を図る場合、教頭がその窓口となることは多い。本研究における実践例を以下に示す。

① 保護者との連携

参観日の懇談会の際に、家庭へタブレットパソコンを持ち帰ったときの接続の仕方や使い方、活用ルールについて、児童と一緒に機器を操作しながら学んでもらうようサポートした。

② 県教育委員会との連携

アシスト事業やサポートプログラムを活用するよう助言し、学校保健委員会や家庭教育学級でメディアとの向き合い方についての話を児童並びに保護者に行った。ゲームやスマホの利用時間やルールについて見直すよいきっかけとなった。



③ 市教育委員会との連携

持ち帰り用パソコン及びモバイルルーターの延岡市内統一した「申請書兼同意書」並びに「パソコン活用のルール」「接続の方

法」についてのデータをC4 t hにアップしてもらったことにより多くの学校で活用が図られた。

④ 延岡警察署（NTT・消費生活センター）との連携

抽出校7校のアンケート結果をもとに「携帯電話・スマートフォン・インターネットの危険性」について、延岡警察署生活安全課による非行防止教室を行った。その様子をホームページに公開し、家庭でのルールづくりの参考にしてもらった。同様に、NTT・消費生活センターとも連携したインターネット教室も開いた。



⑤ 延岡市PTA連絡協議会との連携

延岡市PTA研究大会での「子どもとメディア～保護者として考えてほしいこと～」と題した講話を学校からも呼びかけオンラインで視聴した。現実には起きている問題を保護者と共有しながら一緒に考えることができた。

⑥ S S Wや適応指導教室との連携

コロナ禍での休校や学校閉鎖に伴い、スマホやネット・ゲームの長時間使用による昼夜逆転などの生活習慣の乱れが不登校の増加につながっている可能性が考えられることから、不登校児童生徒のケアをスクールソーシャルワーカー（S S W）や適応指導教室に相談しながら対応にあたった。

4 今後の課題

今回、市内児童生徒・保護者の実態調査を通して、メディア利用の問題点を整理でき、児童生徒への指導や保護者への啓発に役立てられる資料を作成できた。また、各関係機関との連携を通して、児童や保護者へのメディアリテラシーを高めることにもつながった。

今後は、小中学校へ1人1台の端末が配当されたこととも関連付け、情報教育の推進に向けた取組を学校と家庭が連携して進めることができるよう、教頭として情報を確実に収集するとともに、組織としての連携・活用について積極的に関わっていく必要がある。